



あい あい
愛 逢

第
58
号

特定非営利活動法人 愛逢
尼崎市小中島 1-20-21
電 話 06-6493-1424
F A X 06-6493-1443
発行責任者 長谷川 達雄
発行日 2014 年 10 月 20 日

===NPO 法人愛逢設立 10 周年記念講演会=== 第 9 回生と死を考える市民講座
～つなぎあい、支え合う、地域をめざして～

ソフトな語り口で、
本質に迫る市原さんの講演



■地域へ還元——市民講座の開催

2014 年 9 月 7 日、聖トマス大学において、生と死を考える市民講座が、68 人の参加者を得て、開催されました。

基調講演の講師には、NPO 法人「ホームホスピス宮崎」理事長の市原美穂さんをお迎えし、地域で安心して、最期まで暮らし続けるために、つなぎあい、支え合うことをテーマに、ご経験をお話いただきました。

■地域を変える

市原さんが 2004 年に、『”宮崎にホスピス”をでなく、”宮崎をホスピスに”』を合言葉に、地域を変えていくという姿勢で、ホームホスピスをスタートされて 10 年、愛逢が NPO 法人を取得した年と同じでご縁を感じます。

※ホームホスピスについては 2 面参照

■地域の社会資源として

ホームホスピスが、看取りの家として地域で果たす役割と、地域と繋がる意味を、講師の市原さんと、当法人長谷川理事長、そして「愛逢の家」の管理者兼行が、鼎談（ていだん）で、語り合いました。

制度上の施設ではなく、ご近所の民家（普通の家）として、地域と繋がっていくためには理解を得ることと、自らコミュニケーションをとっていく工夫が必要です。

法人も 10 周年を経て、各事業を通じ、地域の社会資源として、認知度を得ることと、組織の醸成と活性を、目指していくことが、今後の目標となっていくことでしょう。

終了後の交流会でも、これからホームホスピスを立ち上げたい方の熱い思いに、共感しました。（海士）



ミッション（社会的使命）

私たちは、多様な生き方が尊重され、誰もが安心して暮らせる地域をつくるために、仲間と支えあい（愛）つなぎあ（逢）っていきます

NPO 法人愛逢では、地域の皆様が日常生活で「困ったなあ…」と思ったときに、ご相談いただける場所です。様々な形の【困った時はお互い様精神】が愛逢の掲げる思いとして今日も活動しております。

第11回 水辺まつり



大阪初！ ホームホスピス誕生

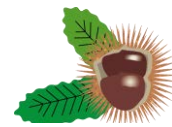
9月15日、大阪で第一号のホームホスピスが泉北に産声を上げました。名前は、ホームホスピス「歩歩歩の家」。(ほほほのいえ) 立ち上げたのは、今年の1月から6か月間、「愛逢の家」での研修を頑張った井上史子さんです。若い彼女に、若い仲間たちが共感し、家に響く子供たちの声が新鮮でした。窓からは一帯の農地、そこに働く人の姿が見られ、「愛逢の家」とは随分環境が違います。でも、その目指すところは、同じで、先輩として、暖かく見守り、応援していきたいと思っています。(兼行)



◆井上史子さんのコメント

開設準備は一人で動いてきました。徐々に形ができてきて、みなさんに協力してもらって、「ありがたいなー」って思います。みんなと一緒に動けることがうれしいです。施設とは違う「家」だからこそ、知恵を出し合い、お互いがフォローしながら仲良くやっていきたいと考えています。働く人にとっても「こんな場所があったらいいな」と思えるような職場でありたいし、障害者の方にも、運営の仲間に入ってもらいたいと考えています。

9月21日、今年も愛逢は、実行委員として企画運営に携わりました。心配していた雨の予報を、大きく裏切り、汗ばむほどの晴天となり、昨年を大きく上回る来場者がありました。愛逢は、土手に設置された駐輪場の整理を行いました。園田地域での大きなイベントの一つということもあり、多様な地域団体同士の結束で成し遂げられるこの水辺まつり!!! 今後も乞うご期待!!! (山下)



ホームホスピスとは？

宮崎市にある「かあさんの家」が発祥の看取りの家で、現在、全国に20箇所あります。民家で、定員5人前後が、暮らしている施設ではない「家」です。

『愛逢の家は、普通に暮らし、安心して死んでくところです』
多くの人が、病院あるいは高齢者施設を最期の居場所としているのが現状です。自分の家で、家族に見守られ、自分のやりたいことができる人は限られています。「愛逢の家」は自分の家ではないけれども、限りなく自分の家のような所です。5人が家族の様に暮らし、生活の音と匂いのある空間で、みんなと囲む食卓は本当に暖かです。

——NPO 愛逢終末期事業「愛逢の家」より



第8回全国校区・小地域福祉活動サミット

ほっとけん！おひとりさまからお互い様へ～助けられ上手への脱皮～

9月13日・14日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスで、延1,100人を超える参加者を得て実施され、「愛逢」も実行委員として、準備・運営を担ってきました。愛逢は、1日目の分科会「助けたり、助けられたり最期まで暮らせる地域をつくるには」を担当し、まず「愛逢の家」の管理者、兼行から、「愛逢の家」の成り立ちから、日々の暮らし方、運営方法、地域づくりに至るまでをまとめて報告しました。また、滋賀県東近江市の永源寺診療所所長花戸貴司さんより、永源寺地域で年間25～29人(地域の40～50%)を看取り、認知症や一人暮らしであっても笑顔で生活することについての報告がありました。多職種や地域資源と連携をとることで可能となること。日頃から死をタブーとせず、家族と話し合っておくことが在宅看取りには必要であること等、話されました。最後に花戸先生は、「専門の診療科目は？」と聞かれると「永源寺です」と答えるといわれたのが印象的でした。

広島平和行動に参加して

8月4～5日、「平和をつくる」この2日間の平和行動の中で一番印象に残った言葉であり、学んだことです。この言葉は、平和資料館にあった平和への願いについての手紙の中の小学生の言葉です。この言葉に出会うまで、平和はつくるものだ意識したことはありませんでした。それは戦争・平和に対する自分自身の無関心を意味していました。無関心からは行動できないように、今回、戦争と平和に対して再び関心を持ち、これからどんな行動をしていくのか大きな宿題をもらった気がします。今回、平和行動に参加する機会と、忙しい中、折り鶴を準備してくれた愛逢のスタッフの皆さん、この場を借りてお礼申し上げます、ありがとうございました。

(西山)

2日目の事例研究「都市の中の孤立からの脱出」には、宝塚市のボランティアグループと川崎市のNPOから報告がありました。普通の主婦が自治会と連携して、孤立死を出さない地域づくりに取り組んでいること。居場所づくりでは、墓以外は全て揃ったといえるほど、住民の困りごとを地域の困りごととして捉え、事業に結び付けていること。活動は楽しく(但し、やりがいや責任に裏打ちされた)、お金は理念に付いてくる等、事例を交えながらの生き活きとした報告は示唆に富んだものでした。

最後に「助けられ上手への脱皮」やコツについて話し合われた後、次年度開催地の富山県黒部市に大会旗が引き継がれて、2日間にわたるサミットは無事終了しました。

(長谷川)



===愛逢設立 10 周年記念バス旅行===



明石海峡⇄淡路島でいちご狩り

- 日 時：2015 年 1 月 24 日（土）9 時 30 分～16 時（予定）
- 目的地：淡路島
- 参加用：5,000 円 ※バス代・昼食費・いちご狩り代含む
- 問合せ：NPO 法人愛逢 TEL：06-6493-1424

※詳細は、次号愛逢ニュース 59 号と一緒にお知らせ
しますので、参加をご検討ください。



小さなお客様

…おみやげはプルタブ

ご近所の善法寺保育園から、子どもたちが、愛逢の事務所を訪ねてきてくれました。手に手にプルタブのおみやげを持って、



こんにちは ☺
……ありがとうございます。
ございます。

園田に居場所ができました 「より愛そのだ～ぼちぼち～」

コープ園田のコミュニケーションコーナーで、10 月 8 日（水）から、愛逢の居場所づくり事業がスタートしています。コープサークル「ぽこぽこ」と、愛逢が協働して、誰でも立ち寄っていただく場所にしていきたいと考えています。ほっこりする時間をご一緒に過ごしませんか？

<予定> ■11 月 12 日（水）

■11 月 26 日（水）

※いずれも 13 時～16 時



ほっと待夢



後期高齢者になった夫が、運転をやめる手続きをし、車を廃車いたしました。その心準備をしていたのでしょうか毎日散歩を心掛けていました。

自分で計画して行動に移す夫です。今までは車で遠くまで出かけていましたが廃車のため、徒歩、また公共交通機関などの乗り物で出かけなければならないのがとても不便になりました。

また私は近くの買い物などは自転車に乗っています。自分の不注意で道で転倒し捻挫いたしました。最近は自転車の事故も多く、私も自転車をなるべく控え歩道を心掛けたいと思います。皆様はどのような計画でしょうか。（ひまわり）

※初登場の「ひまわり」です、よろしくお願いします。

